

中学校への接続を意識した小学校英語教科書の作成における視点

長谷川 淳一

キーワード：小学校英語教育、中学校英語教育、文部科学省検定教科書、言語材料、
題材

はじめに

小学校学習指導要領（平成29年告示）により、2020年4月から小学校3,4年生で領域として「外国語活動」、小学校5,6年生で教科として「外国語」がそれぞれ実施されることになった。このことを踏まえ、2018（平成30）年4月から完全実施までの2年間が移行措置期間となる。文部科学省は、小学校3年生には、「外国語活動」のテキストとして*Let's try1*、4年生には*Let's try2*をそれぞれ配布している。また、5年生には*Hi, friends!1*と*We can!1*、6年生には*Hi, friends!2*と*We can!2*を配布している。

前述の通り、小学校5、6年生の「外国語」は教科となるため、2020年4月からは検定教科書が使用されることになる。検定教科書は、学習指導要領に基づいて作成され、その使用は学校教育法によって定められている。

教材は、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、などの五つの領域別の目標と音声、文字及び符号、語、連語及び慣用表現、文及び文構造などの内容との関係について、明確に示す必要がある。

さらに、言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げる必要がある。具体的には、言語の使用場面の例として、家庭での生活、学校での学習や活動、地域の行事などの児童の身近な暮らしに関わる場面や挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内などの特有の表現がよく使われる場面等が考えられる。言語の働きとしては、挨拶をする、呼び掛けるなどのコミュニケーションを円滑にする働き、礼を言う、褒めるなどの気持ちを伝える働き、説明する、報告するなどの事実・情報を伝える働き、申し出る、意見を言うなどの考えや意図を伝える働き、質問する、依頼するなどの相手の行動を促す働き等が例として挙げられる。

本稿では、文部科学省が小学校の外国語活動の質的水準を確保するために、中学校との連携を考慮して作成した共通教材「英語ノート」、*Hi, friends!*、*Let's try!*、*We can!*の特徴を概観するとともに、筆者が特区や教材出版社において小学校英語教材作成に関わった経験

を踏まえ、それらの教材の特徴にも言及する。その上で、中学校への接続を意識した小学校英語教科書の作成における留意点を新学習指導要領に基づいて、言語材料や題材選択の視点から検討する。

I 「英語ノート」、*Hi, friends!*、*Let's try!*、*We can!* の特徴

「英語ノート」、*Hi, friends!*、*Let's try!*、*We can!* は、いずれも学習指導要領に基づいて作成されているため、学習指導要領の内容を反映した教材と捉えることができる。

「英語ノート」は、2009（平成21）年4月に、*Hi, friends!* は、2012（平成24）年4月に配布されている。

「英語ノート」は、学習指導要領の三つの目標（①言語や文化について体験的に理解を深める ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う ③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる）を具体化したものであり、聞く、まねて繰り返し言う、発話する、アルファベットの文字を視写するなどの活動が中心となる。言語材料は、基本的な語、語句、文、アルファベットの太文字・小文字などがあり、文には、I like～. What do you like? の様な感情や意見を表現したり、尋ねたりするものと What's this? It's～. の様な事実を表現したり、尋ねたりするものとに大別できる。題材としては、世界の様々な言語や文化（日本語や日本文化を含む）、児童の身の回りのことが盛り込まれており、具体的には、世界の言語やジェスチャー、食べ物、動物、衣服、教科、スポーツ、町の中の建物、職業などが取り上げられている。

Hi, friends! は、先の「英語ノート」の教育実践における積み重ねを重視する意味で、題材や言語材料などはほとんど変更をせず、「英語ノート」を踏襲する内容となっている。教材自体のコンセプトとして、その作成に関わった直山（2013）は、次の四つの点を指摘している¹。

- (1) 小学校学習指導要領 外国語活動編 に記載されている目標、内容等の具現化の一例であることから、学校や教員が、子どもの実態に合わせて活用する外国語活動教材であることを踏まえる。また、新学習指導要領では、「道徳の時間などとの関連を考慮しながら、道徳の内容について、外国語活動の特質に応じて適切な指導をする」ことが求められていることを踏まえる。
- (2) 子どもに負担のない活動の流れにする。
- (3) 単元終末に、できるだけペアやグループでコミュニケーションを図る活動を設定する。
- (4) 単元の時数や児童用冊子の各単元数は、題材に合わせて設定する。

さらに、「小中連携を踏まえ、中学校英語科の授業でも活用できる誌面作りをする」と付け加えている。

Let's try! は、「英語ノート」、*Hi, friends!* に続く新教材で、新学習指導要領に基づき、2018（平成30）年4月に配布されている。小学校中学年用に提案されたもので、「外国語活動」の

導入として適切な*Let's try!1*と応用として内容豊富な*Let's try!2*が用意されている。*Let's try!*の作成上の主なポイントは、『新学習指導要領 外国語活動』の次の記述が該当する。

- (1) 「聞くこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」の三つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することを目指す。
- (2) 英語でのコミュニケーションを体験させる際は、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定する。
- (3) 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をする。

We can! も、*Let's try!* 同様に、「英語ノート」、*Hi, friends!* に続いて2018(平成30)年4月に配布された小学校高学年用の新教材である。従来の教材に比べて、質・量ともに充実した内容であるため、難度も高く、それだけに指導者には、十分な教材研究が求められる。新学習指導要領の「外国語科」で育成する資質・能力の①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力・人間性等に基づいて作成されているが、現行の「外国語活動」の学習指導要領の目標である「外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」といったことにも対応できる内容となっている。

Ⅱ *English for the World* (国際人育成を目指し、「世界に向かったの英語」) の特徴

東京都港区は、平成17年7月に「国際人育成を目指す教育特区」に認定され、平成18年度から小学校8校で、平成19年度からは全校で教育課程に「国際科」を位置付けるとともに外国人講師(NT: ネイティヴ・ティーチャー)を各校に配置し、英語によるコミュニケーション能力の基礎を培っている。また、区内中学校においても、平成18年度から、英語によるコミュニケーションを図ることを目的として、週1時間の「英語科国際」を加え、週5時間の英語教育を実施している。このような施策に際して、筆者らは、以下の「港区国際科指導指針」を策定した。

「港区国際科指導指針」

(1) 国際コミュニケーション

世界の人々とコミュニケーションを行うため、すべての外国語の基礎として英語を学ぶ。

(2) 異文化理解と国際共生

世界のいろいろな文化を学び、世界の人々と交流し、共生することを目指す。

(3) 伝統文化の理解と発信

異文化を理解し、尊重するとともに、日本の伝統文化を理解し、外国人に発信するこ

とを目指す。

さらに、上記の「港区国際科指導指針」に基づいて、小学校1年生から小学校6年生まで対応した港区独自の共通教材である *English for the World 1~6* (国際人育成を目指し、「世界に向かっての英語」) を作成した。また、小中連携の観点から、中学校への円滑な接続を意識した中学校1年生用の副教材である *English for the World 7* も同時に作成した。次に、*English for the World 1~7* に共通する特徴を示す。

(1) リスニングを重視

聞いて理解することを言語習得の基本と考え、本文や言語活動、物語等できるだけくさんの英語を聞かせる。

(2) スピーキングを重視

自己表現の強化として、発信型英語の促進のため、*show and tell* や郷土についてのスピーチなど、積極的に話す態度を養う。

(3) 文字の早期導入

言語学習では、文字があるのが普通であり、文字を知ると学習が促進されるのではないかと考え、文字を入門期から導入している。ただし、入門期では文字を指導せず、発達の段階に応じて、徐々に指導するようにしている。

(4) 題材の工夫

児童の学習の段階に応じて、夢を持たせ、楽しく学習できるように、言語材料中心ではなく、題材内容を中心に構成している。

(5) 他教科との関連付け

小学校では、学級担任が全教科を指導するため、他教科と学習内容や学習時期を関連付けて構成している。

なお、活用に際しては、全てのUNITを始めから順序に従って行う必要はなく、各学校や児童の実態に応じて、臨機応変に軽重をつけながら柔軟に指導できるようにするため、教師用指導書の解説にも配慮している。また、テキストの他に、臨場感あふれる内容が録音された付属CDも用意されており、常駐する外国人講師とのティーム・ティーチングにも、効果的に利用されることを意図している。

Ⅲ 「みんなの英語」Book1~Book3の特徴

小学校外国語活動における初の共通教材である「英語ノート」に先がけ、英語が「総合的な学習の時間」の中の「国際理解教育に関する一環」として学習されていた初期の段階に、基礎的な国際コミュニケーション能力育成、外国語（英語）の基礎力育成、異文化対応能力育成などを目標に、「みんなの英語」Book1~Book3は作成された。Book1は低学年、Book2は中学年、Book3は高学年をそれぞれ対象としている。知識や技能が中心ではなく、体験的な学習として、必要に応じて、他教科とも関連させながら総合的に英語を学ぶことを意

図し、児童の情操や人間性の育成を含めた全人教育の観点にも配慮した内容になっている。*Book1*は、児童が日常生活を中心に、英語表現に慣れ親しむことを主眼に置き、「あいさつ」から「季節ごとの行事」など、児童の身の回りのことを主に取り扱っている。*Book2*では、自己から他者との関わりへと広がりを持たせ、「あいさつ」「わたしの夢」「ビデオレターを作ろう！」など、自分の気持ちや思いを主体的に伝えることを目指している。*Book3*は、児童が国際人として世界にむかって羽ばたくことをイメージし、「伝統工芸・特産物を紹介しよう！」などの自国の文化紹介から「世界の天気」「世界の山・川」など、調べ学習にも対応できるように、世界に目を向けさせる構成になっている。特に、題材に関しては、英語の文字や単位を含めた数量の言い方など中学校英語への接続を意識し、児童の知的好奇心を満たす活動内容が豊富に用意されている点が特徴的である。

Ⅳ 中学校への接続を意識した小学校英語教科書の作成における留意点

小学校高学年では、外国語が教科となることにより、文部科学省検定教科書が2020年4月から使用されることになる。小学校中学年では、外国語は領域であるため、聞くこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕を中心とした*Let's try!1, 2*が国から配布されることになる。また、*Let's try!1, 2*に準拠したデジタル教材も現行通り用意される。

英語教科書を特色づける要素として、言語材料、言語活動、題材が挙げられる。ここでは、小学校高学年用の英語教科書に焦点を置き、言語材料、題材の視点からその作成における留意点を検討する。

教材の選定について、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』（3）教材選定の観点の項で、次の二つの留意事項を示している。

- (1) 教材は、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成するため、1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げること。
- (2) 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点到に配慮すること。

今回の改訂で、(1)については、教材と五つの領域別の目標との関係を示すように新たに明記された。これにより、五つの領域別の目標と英語の音声や語彙、文や文構造などの内容と関連付けて教材が選定されることになる。(2)に関しては、外国語学習を通じて、言語や文化の多様性を尊重し、国際理解・国際協調の観点から、国際人の育成を目指すといった内容が新設された。このような内容も五つの領域別の目標と関係付けながら、教材選定

が行われる必要がある。

新学習指導要領の中で述べている小学校外国語科の言語材料とは、言語活動を行うのに用いる様々な要素のことである。具体的には、音声、文字及び符号、語、連語及び慣用表現、文及び文構造のことである。

表1は、前述の『外国語編 解説』の付録に掲載されている「外国語の言語材料」の学校段階別一覧表（一部省略）である²。小学校高学年の外国語科と中学校外国語科の言語材料を示している。

音声に関しては、小学校高学年においては、基本的な語や語句、文についての事項で、中学校の内容と同一である。このことから、現行の中学校英語教科書の音声指導の記述を参考にしながら、日本語の発音との違いや語と語のつながりによる音の変化、発音する際の基本的な強弱リズムやイントネーションなどに気付かせる内容が必要である。

文字については、中学校外国語科で扱われた事項が部分的に小学校外国語科に移行されている。具体的には、中学年の外国語活動での文字指導を基に、高学年では、文字を見て名称を発音できるようにしたり、形が似ている文字を識別できたり、丁寧に文字を筆写するように工夫することが求められる。単語レベルの文字の提示に関しては、文字単独ではなく、その単語の意味に該当する絵やイラストを添えるなど視覚的な要素も加味するとよいと思われる。また、文字を書く際には、定着を目指したドリル的な練習ではなく、自分の名刺や誕生日カード、クリスマスカードなどの実際のコミュニケーションを意識した内容を盛り込みたい。

符号とは、終止符や疑問符、コンマなどの符号のことで、音声で十分慣れ親しんだ表現を児童が筆写する時にそれらにも留意させることが大切である。現行中学校1年生用の教科書には、イラストや文字による符号の説明がわかりやすく説明されているので参照するとよい。

語、連語及び慣用表現といった語彙は、表1にあるように、五つの領域別の目標を達成するために必要な語のことである。中学校外国語科では、語彙に関して、活用頻度の高いものと明示されているが、小学校の教科外国語の語彙では、活用頻度の高い基本的なものと指摘がある。語数については、先の『外国語編 解説』の中で、「小学校段階で求められる定型の挨拶や、自分や身の回りの物事に関する簡単な描写や質問と応答、自分の考えや気持ちを述べる最も基礎的な言い回しなどに必要な語数を踏まえて設定した。（中略）なお、この600~700語というのは後述する発信語彙と受容語彙の両方を含めた語彙サイズであり、これらの全てを覚えて使いこなさなければならない、ということではない」とある。

この発信語彙と受容語彙は、小学校の外国語科では「聞くこと」「話すこと」の領域が中心で、「読むこと」や「書くこと」は、慣れ親しませるレベルである。中学校外国語科では、これらの語に加えて、1600~1800語程度の新語を学ぶことになる。語彙においても、このような語彙の質的な面と量的な面を考慮し、小学校の外国語科の言語活動において繰り返し活用できるような語彙選択が小学校英語教科書に切に望まれる。

文及び文構造については、小学校外国語科、中学校外国語科ともに、「意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること」としている。音声、語、連語及び慣用表現と同様に、小学校外国語科では、基本的な表現としての文及び文構造を対象としている。日本語と英語の語順の違いなどはその一例で、絵や図表などを用いてわかりやすく解説している *We can!*2 の Unit3 及び中学校1年生用の教科書は参考になる。*We can!*2 の Unit5 で導入されている動名詞や過去形 (went, enjoyed-ing, ate, was, saw, had など) は始めて導入されるものだが、表1で示すように、小学校外国語科では、文法事項としての取扱いがないため、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で基本的な表現として慣れ親しませるということである。定着を目指した内容は、中学校外国語科で扱われるので、小学校段階では、その導入方法に工夫が必要になる。つまり、学校生活や夏休みの計画等、児童の日常生活に密着した具体的な話題の中で、自然な形で動名詞や過去形を導入し、配列するということである。

このように、音声、文字及び符号、語、連語及び慣用表現、文及び文構造といった言語材料は、小学校から中学校へと系統的に学習内容を配列することで、学習効果を期待できよう。要するに、小学校中学年及び高学年に学習する言語材料を基本的な表現の中に組み込み、中学校入学まで何度も繰り返し小学校英語教科書の中に出てくるように設定することで、記憶の定着を図ることを目指すことになる。さらに、その既習の基本的な表現に自分の伝えたい内容を加えて、発展的な言葉のやり取りや発表などを通して、スパイラルに学習することも可能になる。

言語材料の導入・活用方法として、*Let's try!* では、Let's Listen (聞いてみよう)、Let's Watch and Think (映像を見て、考えてみよう)、Let's Play (ゲームをしよう)、Let's Chant (リズムに合わせて言ってみよう)、Let's Sing (英語で歌おう)、Activity (考えや気持ちを伝え合おう)、*We can!* では、上記に加えて、Jingle (最初の音を意識して言ってみよう) Let's Talk (会話をしよう)、Let's Read and Write (文章を読んで、書いてみよう)、Let's Read and Watch (文章を読んで、映像を見てみよう) などの言語活動が設定されている。このような多彩な言語活動が児童の英語学習への動機付けを高めるだけでなく、言語材料の定着にも貢献する可能性を考慮すると、*Let's try!* や *We can!* は、小学校英語教科書の作成の際に大変参考になる。

表 1 「外国語の言語材料」の学校段階別一覧表（一部省略）²

	小学校第 5 学年及び第 6 学年外国語	中学校外国語
音声	次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。 (7) 現代の標準的な発音 (i) 語と語の連結による音の変化 (ii) 語や句、文における基本的な強勢 (e) 文における基本的なイントネーション (f) 文における基本的な区切り	次に示す事項について取り扱うこと。 (7) 現代の標準的な発音 (i) 語と語の連結による音の変化 (ii) 語や句、文における基本的な強勢 (e) 文における基本的なイントネーション (f) 文における基本的な区切り
文字及び符号／ 符号	(7) 活字体の大文字、小文字 (i) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号	感嘆符、引用符などの符号
語、連語及び慣用 表現	(7) 1 に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第 3 学年及び第 4 学年において第 4 章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む 600～700 語程度の語 (i) 連語のうち、 get up, look at などの活用頻度の高い基本的なもの (ii) 慣用表現のうち、 excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcome などの活用頻度の高い基本的なもの	(7) 1 に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、小学校で学習した語に 1600～1800 語程度の新語を加えた語 (i) 連語のうち、活用頻度の高いもの (ii) 慣用表現のうち、活用頻度の高いもの
文	次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。 a 単文 b 肯定、否定の平叙文 c 肯定、否定の命令文 d 疑問文のうち、 be 動詞で始まるものや助動詞(can, do など)で始まるもの、疑問詞(who, what, when, where, why, how)で始まるもの e 代名詞のうち、 I, you, he, she などの基本的なものを含むもの f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの	小学校学習指導要領第 2 章第 10 節外国語第 2 の 2 の(1)のエ及び次に示す事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。 a 重文、複文 b 疑問文のうち、助動詞(may, will など)で始まるものや or を含むもの、疑問詞(which, whose)で始まるもの c 感嘆文のうち基本的なもの
文構造	a [主語＋動詞] b [主語＋動詞＋補語] のうち、 主語＋ be 動詞＋名詞／代名詞／形容詞 c [主語＋動詞＋目的語] のうち、 主語＋動詞＋名詞／代名詞	a [主語＋動詞＋補語] のうち、 主語＋ be 動詞以外の動詞＋名詞／形容詞 b [主語＋動詞＋目的語] のうち、 (a) 主語＋動詞＋動名詞／ to 不定詞／ how (など) to 不定詞 (b) 主語＋動詞＋ that で始まる節／ what などで始まる節 以下省略
文法事項		省略

次に、題材については、「外国語編 解説」の中で、言語の使用場面や言語の働きにも教材選定の際に配慮するように明記している。言語の使用場面の例には、「家庭での生活」、「学校での学習や活動」、「地域の行事」などの「児童の身近な暮らしに関わる場面」や「挨拶」、「自己紹介」、「買物」、「食事」、「道案内」、「旅行」などの「特有の表現がよく使われる場面」などが挙げられている。言語の働きとしては、「挨拶をする」などの「コミュニケーションを円滑にする」、「礼を言う」などの「気持ちを伝える」、「説明する」などの「事実・情報を伝える」、「意見を言う」などの「考えや意図を伝える」、「依頼する」などの「相手の行動を促す」等が例示されている。

また、題材の選択においては、以下の三つの観点が示されている。

- (1) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。
- (2) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。
- (3) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つこと。

このように、小学校高学年用の英語教科書の題材の選択の際には、多様な価値観を持った人々と分け隔てなく接し、多様な考え方を受容し、共生の心を養うような内容を含んだ題材が求められる。また、自国の文化や相手の文化に理解を深め、相互に尊重する態度を育成する題材の選定が望まれる。そして、異文化対応能力や国際協調の精神を養うことにつながる題材を選ぶことも大切である。その点からすると、先に概観した「英語ノート」、*Hi, friends!*、*Let's try!*、*We can!*、*English for the World 1~6*、「みんなの英語」*Book1~Book3*は、いずれも上記の題材選定の条件を満たしていると言える。言語の使用場面においても、家庭、学校、地域などの児童の身近な暮らしに関わる場面を小学校の中学年で主に取扱い、高学年においては、日本社会や世界へと視野を広げていくような構成は上記のどの教材にも共通しており、重要な特徴である。

また、新学習指導要領に基づいて中学校への接続を意識したカリキュラムを設定する際にも、題材選定に様々な工夫が見られる中学校英語教科書は無視できない。例えば、「いろいろな国の言葉」、「挨拶」、「様々な場面の英語」、「アルファベット」、「身の回りの英語」、「数字」、「教室英語」、「ローマ字表（ヘボン式）」、「マザーグース」などの教科書の巻頭と巻末にある情報は、小学校の外国語活動・教科外国語で扱う内容を多く含んでおり、小学校英語教科書の作成にも役立つように思われる。

表2は、2002年度版、2012年度版、2016年度版の中学校英語教科書に取り上げられている英語圏を含んだ国々の主な内容（題材）とその件数をそれぞれ地域別にまとめたものである³。（ ）の中の数字は件数を示し、（ ）以外の数字は各地域ごとの合計を表している。題材から中学校英語教科書への接続を考える際には、この表を参考にして、児童の日常生活や学校生活に関連のある内容に置き換え、小学校英語教科書の題材として取り上

げること考えられる。例えば、「日本の小学校生活」、「町探検」、「修学旅行」、「小学生の趣味」、「日本の昔話」などが挙げられる。

表 2 中学校英語教科書に取り上げられている英語圏を含んだ国々の主な内容とその件数³

地域	2002 年度版 22 件	2012 年度版 29 件	2016 年度版 36 件
英語圏及びヨーロッパ	ロンドン市内観光(4) オーストラリアの紹介(6) ニューヨークの観光(3) カナダの言葉とスポーツ(3) アメリカの紹介(2) ワシントンの観光(1) サンフランシスコ・ロサンゼルス観光(1) 英仏海峡トンネル・ネッシー・ウェールズ民族(1) ニュージーランドの自然(1)	アメリカの中学校生活(5) サンフランシスコ紹介(5) オーストラリア紹介(3) アメリカのホームステイ(2) オーストラリアのホームステイ(2) フィンランド紹介(2) アメリカ文化(クリスマス・新年) 紹介(1) ハワイ文化紹介(1) イギリス文化(バクパイ) 紹介(1) ワシントン D.C. 紹介(1) ニューヨークのセントラルパーク紹介(1) イギリス行きの機内(1) イギリス紹介(1) ロンドン紹介(1) ロンドンのホームステイ(1) ニュージーランド紹介(1)	アメリカの中学校生活(7) サンフランシスコ紹介(5) オーストラリア紹介(6) アメリカのホームステイ(2) オーストラリアのホームステイ(4) フィンランド紹介(3) アメリカ文化(クリスマス・新年) 紹介(1) ハワイ文化紹介(1) イギリス文化(バクパイ) 紹介(1) ワシントン D.C. 紹介(1) イギリス行きの機内(1) イギリス紹介(1) ロンドン紹介(2) ロンドンのホームステイ(2)
アジア	16 件 シンガポールの歴史(3) インドの言葉(2) 中国の文化の影響(1) 韓国の文化の影響(1) 中国の紹介(1) 日本と中国の祭り(1) 日本と韓国の習慣の違い(1) モンゴルの人々の生活(1) 香港の観光(1) 韓国とベトナムの「衣」の文化(1) インドネシアの歴史(1) ボルネオの自然破壊(1) カンボジアの文化の影響(1)	86 件 日本の中学校生活(27) 日本文化(マンガ・アニメ・映画・けん玉・折紙) 紹介(6) インタースHIP(4) スピーチ(白川郷・好きなもの・学校のチャイムの歴史)(4) 日本の修学旅行(京都・奈良)(3) 日本の中学生の趣味(3) 日本のお正月の過ごし方(初詣・年始のあいさつ)(3) 校外学習(盲導犬体験教室)(2) 日本紹介(2) 英語で落語(2) 日本の実話の英訳(2) 日本の食文化の紹介(2) 日本の夏祭り紹介(2) 沖縄紹介(2) 日本の伝統芸能紹介(1) 日本の四季(1) 日本の火山の紹介(1) 日本のスポーツ(相撲・柔道) 紹介(1) 広島島の原爆(1) 浅草紹介(1) 京都紹介(1) 松山紹介(1) 調べ学習(学校)(1) 中学生の意見(1) 英語を学ぶ意義(1) ディベート(弁当 or 給食)(1) インタビュー(日本の印象)(1) 日本の中華街訪問(1) 日韓の文化交流(1) 韓国の中学校生活(1) カンボジアの中学校生活(1) 国際フードフェスティバル(インド・韓国)(1) 韓国紹介(1) インド紹介(1) シンガポール紹介(1) ブータン紹介(1)	100 件 日本の中学校生活(32) 日本文化(マンガ・アニメ・映画・けん玉・折紙) 紹介(10) インタースHIP(4) スピーチ(白川郷・好きなもの・学校のチャイムの歴史)(4) 日本の修学旅行(京都・奈良)(5) 日本の中学生の趣味(3) 日本のお正月の過ごし方(初詣・年始のあいさつ)(3) 校外学習(盲導犬体験教室)(2) 日本紹介(2) 英語で落語(2) 日本の実話の英訳(2) 日本の食文化の紹介(2) 日本の夏祭り紹介(2) 沖縄紹介(2) 日本の伝統芸能紹介(1) 日本の四季(1) 日本の火山の紹介(1) 日本のスポーツ(相撲・柔道) 紹介(1) 広島島の原爆(1) 浅草紹介(1) 京都紹介(1) 松山紹介(2) 調べ学習(学校)(1) 中学生の意見(1) 英語を学ぶ意義(1) ディベート(弁当 or 給食)(1) インタビュー(日本の印象)(1) 日本の中華街訪問(1) 日韓の文化交流(1) 韓国の中学校生活(1) 国際フードフェスティバル(インド・韓国)(2) 韓国紹介(2) インド紹介(1) シンガポール紹介(1) ブータン紹介(2)
アフリカ	5 件 ケニアの紹介(2) アフリカへの支援(2) エジプトの観光(1)	0 件	1 件 マラウイ共和国での自然エネルギー開発(1)
中東	1 件 中東(カディフ)での自然破壊(1)	0 件	0 件
中南米	2 件 インカ文明の遺跡(1) ブラジルのサッカー(1)	1 件 メキシコの実話の英訳(1)	5 件 ブラジル紹介(3) ブラジル移民(1) アマゾン熱帯雨林(1)
その他	0 件	58 件 環境問題(自然保護・温暖化対策・リサイクル活動・エネルギー資源の開発(9) 将来の夢(4) 家族紹介(3) 世界の朝食(2) セラビードック(1) 動物救済(1) 手話(1) 点字(1) ユニバーサルデザイン(1) イルカの物語(1) 日本の小説の英訳(1) ガリバー旅行記(1) アンネ・フランクの日記(1) 世界遺産(1) 世界の町(1) 世界の祭り(1) 世界の家(1) 世界の民族服(1) 世界のジェスチャー(1) 世界の遊び(1) 地球の歴史(1) 好きな言葉(1) キング牧師の功績(1) マザーテレサの功績(1) スティービー・ワンダーの功績(1) ジャッキー・ロビンソン(野球選手)の紹介(1) 山本敏晴(国際協力師)の紹介(1) 言葉のおもしろさ(1) フェアトレード・チョコレート(1) 外国人力士のエピソード(1) 電子辞書の賛否(1) 夏休みの計画(1) ロボットコンテスト(1) ロボットとの共存(1) ハロウィンパーティー(1) 誕生日パーティー(1) クリスマスコンサート(1) 慈善活動(1) 車いすバスケットボール(1) 地震のない世界(1) ニュース放送(竜巻・コマチャール・スポーツ)とウェブサイト(1) 市民通訳ボランティア(1) プレゼンテーション(1) 世界の山・ミュージシャン・最大の動物(1)	64 件 環境問題(自然保護・温暖化対策・リサイクル活動・エネルギー資源の開発(17) 将来の夢(6) 家族紹介(5) 世界の朝食(4) 動物救済(1) 手話(2) 点字(1) ユニバーサルデザイン(1) イルカの物語(1) 日本の小説の英訳(1) ガリバー旅行記(1) アンネ・フランクの日記(1) 世界遺産(1) 世界の町(1) 世界の祭り(1) 世界の家(1) 世界のジェスチャー(1) 世界の遊び(1) 地球の歴史(1) 好きな言葉(1) キング牧師の功績(1) マザーテレサの功績(1) スティービー・ワンダーの功績(1) ジャッキー・ロビンソン(野球選手)の紹介(1) 山本敏晴(国際協力師)の紹介(1) 言葉のおもしろさ(1) フェアトレード・チョコレート(1) ロボットコンテスト(1) ロボットとの共存(1) ハロウィンパーティー(1) 誕生日パーティー(1) クリスマスコンサート(1) 慈善活動(1) 車いすバスケットボール(1) 地震のない世界(1)

中学校英語教科書では、学習する生徒と同学年の外国出身の登場人物が、出身国の日常生活や風俗習慣を説明する設定になっており、自然に外国の文化に興味・関心を持たせる工夫がなされているが、*We can!* でもそのような設定になっていることから、教科書が小中を通して同じ出版社の場合には、同一の登場人物が多様な文化に触れながら成長していく形態をとることも一案である。また、*We can!* では、映像を見て、日本の食べ物や日本古来の遊び、日本の伝統文化についてわかったことを書くことから、日本の紹介へと広がりを持たせた言語活動を設定している。中学年から慣れ親しんだ表現を活用しながら、ストーリーを展開する「日本の昔話」や「世界の物語」などは、読み聞かせから劇活動へとつなげることもできるという意味からも有益であろう。以下、題材選択の視点から、小学校英語教科書の作成の際の留意点をまとめてみる。

- (1) 教材選定に際しては、言語の使用場面や言語の働きにも十分配慮するようにする。
- (2) 教科書に児童と同学年の日本及び外国出身の人物を登場させ、様々な地域や風俗習慣の話題に触れさせるようにする。
- (3) 日本の伝統文化などを改めて自覚するようなタスク（言語を使用する多様な活動）を設定する。
- (4) 慣れ親しんだ英語表現で書かれた「日本の昔話」や「世界の物語」の中から、児童の発達の段階に応じて読み聞かせから発表へとつながるものを取り上げる。
- (5) 特に、中学校との接続を意識して、中学校英語教科書の巻頭と巻末や本文中の様々な文化情報を参考にするなど、中学校英語教科書を効果的に活用する。

おわりに

本稿では、国の共通教材である「英語ノート」、*Hi, friends!*、*Let's try!*、*We can!* 及び特区や教材出版社において作成した小学校英語教材の特徴を概観した。次に、中学校への接続を意識した小学校英語教科書の作成における留意点を新学習指導要領に基づいて、言語材料や題材選択の視点から検討した。

H.CurtainとC.A.B.Pesolaは、テキスト及びその他の文字教材の評価基準として、次の観点を指摘しており⁴、前述の小学校英語教科書の作成における留意点との重複も見られる。

文化としての適性

- (1) 教材計画の中に学習言語の文化が統合的に組み込まれているか。また、文化を学ぶのではなく、体験するようになっているか。
- (2) 単にひとつの国や地域、限られた民族を取り上げるのではなく、地球的展望を持って文化を扱っているか。
- (3) 場面や言葉は文化的に真正であるか。
- (4) 多様な文化の価値と豊かさを尊重させる教材であるか。

教科書には、学習指導要領に基づいた作成者の言語観、指導理念等が反映されるが、それを活用する児童の視点も忘れてはならない。また、全人教育としての小学校外国語教育を考える上で、上記の文化としての適性といった観点にも配慮する必要がある。

注

- 1 直山木綿子. 2013. 『小学校外国語活動のあり方と“Hi, friends!”の活用』 pp.16 東京：東京書籍.
- 2 文部科学省. 2018. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』 pp.170 東京：開隆堂.
- 3 長谷川淳一. 2018. 「中学校英語教科書における題材の変遷」慶應義塾大学教職課程センター『年報』 pp.34-35 第26号
- 4 Helena Curtain&Carol Ann Bjornstad Pesola. (伊藤克敏他訳) 1999. 『児童外国語教育ハンドブック』 pp.288 東京：大修館.

参考文献

Paul, D. 2003. *Teaching English to children in Asia*: Hong Kong Pearson Education
大城賢編. 2017. 『小学校新学習指導要領ポイント総整理 外国語』 東京：東洋館出版社.
管正隆. 2017. 『小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語』 東京：ぎょうせい.
松川禮子・大下邦幸. 2009. 『小学校英語と中学校英語を結ぶ—英語教育における小中連携—』 東京：高陵社書店.
行廣泰三. 2014. 『小学校の英語教育 時計式数え方—小・中・高等学校の連係・繋がりを中心に』 東京：開拓社.

参考資料

文部科学省. 2012. *Hi, friends!1* 東京：東京書籍.
文部科学省. 2012. *Hi, friends!2* 東京：東京書籍.
文部科学省. 2018. *Let's Try!1* 東京：東京書籍.
文部科学省. 2018. *Let's Try!2* 東京：東京書籍.
文部科学省. 2018. *We can!1* 東京：東京書籍.
文部科学省. 2018. *We can!2* 東京：東京書籍.